



雪灯籠づくり

梵珠少年自然の家

1 活動のねらい

- ・積雪期にしかできない活動をととして、雪国の自然に親しむことができます。
- ・グループで協力して完成させる喜びを味わうことができます。

【教科への対応】 小学校：図画工作など 中学校：技術・家庭など

2 活動の概要

雪の塊を削り、灯籠の形を作り、横に穴をあけて中に、キャンドル等を入れ点火し、雪灯りを楽しみます。削るもとなる雪の塊は、リンゴ箱に雪を詰めて作ったブロックを積み上げて作ります。

- (1) 人数 80人以内
- (2) 対象 小学校5年生～中学生・高校生
- (3) 期間 1月～2月
- (4) 時間 1.5～2時間（説明20分+活動70～100分）
- (5) 場所 自然の家活動エリア
- (6) 経費 無料
- (7) 指導 製作方法等について、自然の家職員が説明（直接または間接指導）を行う。



<作品例>

3 準備物

団 体	救急薬品、キャンドル
個 人	汗ふきタオル、帽子、手袋、長靴、冬の野外活動にふさわしい服装
自然の家	スノーソー、スノースコップ、リンゴ箱、バケツ、移植ベラ等

4 引率者の役割分担

役割名	内 容
代表責任者	1名。全体の総括、指揮、連絡にあたる。
用具担当者	1～2名。自然の家から貸し出す用具類の管理を行う。
活動支援者	数名。子どもたちの活動を支援し、安全と事故防止に努め、緊急時に対応する。



<雪ブロックを積む>



<雪灯籠の形を整える>

5 活動の流れ

	内 容
説 明	・製作方法について説明 ・用具の使い方と安全管理について説明
活 動	① 場ならし ・雪を踏み固めて、作成する場をつくる。 ② 雪ブロックづくり ・リンゴ箱に、スノースコップで1／3程度の雪を入れ、踏み固める。続けて雪を入れて同じように踏み固め、しっかりとしたブロックを完成させる。 ※4つの隅をかかとでしっかりと踏み固める。 ③ 雪ブロックの積み上げ ・①の場所に、雪ブロックを2列ずつ3～4段積み上げ、直方体の塊を作る。 - ブロックは段ごとに90°回転させる。 ・ブロック同士の隙間は、雪で埋め、きれいな面に仕上げる。 ④ イメージを描く ・直方体の雪塊の面に、削るイメージをスノーソーで描く。 ⑤ 削る ・スノーソーや移植ベラなどを使い、塊の上から削る。 ・はじめに「笠（屋根）」を形作り、次に「火袋（キャンドルを入れる部屋）」、「中台（火袋の台）」、「竿（中台を支える柱）」、「基礎（いちばん下の台）」の順で形成する。 ・「笠」のてっぺんに「宝珠（ほうじゅ）」を付けてもよい。 ※「宝珠」とは、仏教でいう宝の玉のこと。 ※削り過ぎたり、角が崩れてもその部分に雪をくっつけ、何回でも補修できる。 ⑥ キャンドルを入れる横穴を作って完成 ・火袋の横から穴をあけ、キャンドルを入れる横穴を作る。
まとめ	・ふりかえり ・借用物品を返却



6 実施上の留意点

- ・雪質により雪が固まらない場合があり、実施が難しいことがある。
- ・ブロックを4段積む場合、引率者による補助が必要である。

7 安全に実施するためのポイント

- ・用具は使用していないときは決まった場所に置いておく。（散乱させておかない。）
- ・スノーソー、スノースコップ、移植ベラ等の扱いには十分注意する。
- ・ブロックを作る雪は決められた場所から集める。（ランダムに雪をとると穴になって危険。）